

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246



「おちばの風景」

画 池田澄子（佐岡分教会ようぼく）

（表紙の絵やイラストの提供を

募集しています。）

頑張れ、頑張れという落とし穴

人間、今が一番若いんだよ。明日より今日の方が若いんだから。いつだって、その人にとって今が一番若いんだよ。

これは【上を向いて歩こう】を作詞した永六輔氏の言葉です。私が好きな言葉の一つですが、先日良かれと思つてある人に同じような言葉を掛けたところ、

「それは君が若いから言える。それを言うとTAKER（奪う人）になつてしまうよ。」

と言われ、ハツとさせられました。

これを言われたのはちょうど先月。十月は秋季大祭の月ということで、いくつかの直轄教会へ巡教に行かせていただきました。そこで話したテーマは『仕切つてつとめる』というものです。ありがたいことに、聴いていただいた何人かの方から「勇ませてもらおうお話でした」と感謝とお褒めの言葉をいただきました。しかし、今あらためて振り返ってみると、こういう檄（げき）を飛ばすような話をする前に、見落としはならない『ある前提』が必要なのかもしれません。

教会へ巡教に行くと、いろんな方とお会いします。また、にをいがけ・おたすけに歩かせていただくと、病気を患つておられたり、心が沈んでいる方など、出会う人によってその

方の状態は様々です。

頑張っていきましょう！と言える人もいれば、簡単には言えない状態の人もいます。場合によっては、ただ話を聞くことしかできず、自分の無力さを痛感することさえあります。

今回の巡教では、教祖百四十年祭に向かって勇んでいきましょうという意図をもってお話をしましたが、それが聞き手の心に響くこともあれば、場合によっては心が苦しくなってしまうこともあるかもしれません。その『ある前提』とは何なのか。私なりの言葉でいうと、それは心にエネルギーがあるか、もしくは未来に向かい歩んでいくための『希望』を持てる状態にあるかということです。



これはカウンセリングの分野でも似たような視点があります。私が尊敬する、東畑開人氏という臨床心理士の著書に【なんでも見つかる夜に、ここだけが見つからない】というものがあります。この本では、カウンセリングという人の心に寄り添う営みにおいて、二つの段階があると述べられています。

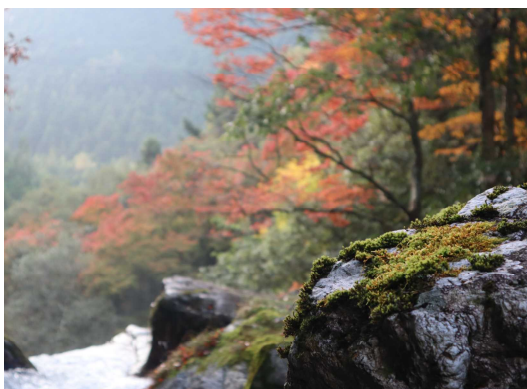
一つ目は、混乱した状態から、安全な港まで避難するための段階です。一度態勢を整えるために、(心の)処方箋が有効に働きます。

二つ目は、安全な港から出て、夜の海へと漕ぎ出す段階です。クラ

イェント(相談者)は暗中模索しながら、自分なりの人生の目的地を探すことになります。この段階を『セラピー』と呼びます。

夜の海。ひどく孤独で身を寄せるあてのない過酷な現代社会のことをこう例え、まずは混乱した状態には、安全な港に寄ることが第一段階であるといえます。言い換えると、自立を目指して進むべき方向を探す『セラピー』をする前に、『ただ、いる』ことのできる心を休める拠り所が必要だということです。

では、お道の教えはどうでしょう。『勇む』や『仕切る』というキーワードはよく耳にしますが、どちらかというと東畑氏のいう第二段階のセラピーに近いと考えられます。一方で、第一段階の態勢を整えるための『心の処方箋』に近いものについては、どう教えていただいているのか。いくつかの方面からおさしづを紐解いてみると、『心』を『休める』というキーワードからヒントとなる手がかりを見つけました。『心休ませ、心の休め』などの言葉でおさしづを検索すると六十件以上も出てきます。その中には身上だけでなく、事情の伺いのおさしづも多数あります。全部読ませてもらうと、『心休める』の近くに出てくる言葉は『たんのう・楽しみ・安心・満足』などがあります。



今回は二つのおさしづを引用いたします。

さあ／＼／＼／＼／＼／＼。もうたんのうという理が、真の心の休めである程に。(明治三十二年七月二十五日)

たんのうさせば心も休まる。心休まれば身も休まる。(明治三十三年五月十三日)

『水を飲めば水の味がする』とお教えいただくように、身の内かりもを始めとし、実は今すでにある御守護にまずは気づくことによつて、たんのうの心が湧いてくる。そこで初めて感謝の心、いわば心のエネルギーが生まれてきます。

あなたの目の前の人はどういう状態なのか。陽気ぐらしに導くためには、相手の状態を見極め、寄り添い方を変えなければなりません。ガソリンがないと車が動かないように、頑張れ、頑張れと声をかける前に、やはり忘れてはならない前提があるようです。

ついつい人に求めてしまいがちな私自身。教祖だったらどうなされるか。その軸を心から離さないよう、『明日に希望を、今日を陽気に』いや、もしくは『今日を陽気に、明日に希望を』の合言葉を胸において、今後の年祭活動を歩んでいきたいと思えます。

立教百八十六年十一月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【神殿講話】

(十一月) 前川いつよ先生
(本部婦人・三昧田分教会長夫人)

【修養科生並びにおさづけの理拝戴者講話】

(十一月) 空閑一将

【教会長神殿当番】

(十一月) 日之富・新立・大豊田
(十二月) 百生・角野・城幡

【詰所教養掛】

(十一月) 田村省悟
(十二月) 坂本久徳

【ひのきしん】

○婦人会詰所ひのきしん
十一月二十五日～二十六日(藤高)

【登用】

左記の方々が10月21日付けで、それぞれ登用されました。

詰所主任 空閑一教(添田)

詰所炊事主任 坂本信子(大教会)

青年 田村庫治(垣生)

【主教百八十六年秋季大祭 祭文】

これの繁藤大教会の神存にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には陽気くらしを樂しみにこの世人間をお創め下され、天保九年十月二十六日、約束の年限の到来と共に教祖をよろにこの世の表に御現れ下さりまして、

〃 月日にわにんけんはじめかけたのわよふきゆさんがみたいゆへから〃と紋型ないところから、人間世界をお創り下さりました深い思召をお明かし下され、元のぢばを始め、よろづ委細の理をお聴かせ下さりまして、これの世界たすけの眞実の御教をお啓き下さいました。しかし現代においても未だ戦争を始め、いたるところで人間同士の諍いや分断が生じている状を御見せたいであります。様々な形で各々世界にお見せ頂く事柄を我々一人ひとりに対する親神様のお仕込みとして思案し、胸の掃除、心の成人につとめさせて頂きたく存じます。その中にも変わらぬ親心のまにまに、親神様の懐に抱かれ、

火水風の十全の御守護をもつてお見守り下さいます御慈愛の程は、誠に有り難く勿体ない極みでございます。私共は御存命でお働き下さる教祖のお導きを頂いて、至らぬながらも道の御用の上に励ませて頂いておりますが、本日十月二十一日は当教会に許し頂く御祭日、主教の元一日の理を拝す日柄でございますので、只今からおつとめ奉仕者一同、陽気に座りづとめてをどりをつとめ、秋の大祭を、執り行わせて頂きます。御前には、今日を樂しみに寄り集つた道の子たちが、ともにおうたを唱和して喜びの心もひとしおに、日頃賜る厚き御恵に御礼申し上げ、尚も変わらぬ親神様にお縫りする眞実の状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

ことわけて申し上げます。今月七、八日には繁藤大教会直属の団参を喜びの中につとめさせて頂きます。加えて昨日は「教会長の集い」を開催し、互いに勇み勇ませ合いながら、それぞれの教会が仕切つて年祭活動に励ませて頂く決意を新たに致しました。そして本日は、大教会世話人の増井幾博本部員にお入り込み頂き、後ほど御講話を頂戴いたします。ぢばの声をしっかりと受け取り、繁藤の理に繋がるお互いが、句をはずすことなく、日々誠眞実の種をまくことによつて、一粒万倍の姿をお見せいただけるよう、勇んで三年千日を歩ませていただく所存でございます。

何卒、届かぬところは、幾重にもお仕込下さりまして、未だ続かたすけ一条の道の歩みを着実に進めさせて頂きますようお導きの程一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会立教百八十六年秋季大祭 祭典役割》

祭主	指図方	扨者	扨者	賛者	男		女		地方	笛	チャンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話				
					座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半																
大教会長	河村道興	佐藤栄治	藤田一憲	田村聡佐	田村省悟	大教会長	前大教会長	田村辰久	前会長夫人	黒石伸子	坂本久徳	佐藤栄治	村上英士	宮田孝道	為田紀久男	田村久徳	安部道郎	河村道興	藤田一憲	藤田洋美	佐藤順子	村上美栄子	増井幾博
秋月真一郎	立花真一郎	佐々木 恵	田村省悟	村上由高	空閑慶吾	空閑一将	伊藤正福	村上由高	河村美佐子	黒石美佐	為田基紀	空閑一教	坂井博文	空閑慶吾	佐藤節幸	佐藤成彦	田村聡佐	秋月真一郎	立花真一郎	坂本喜子	佐藤文代	田村睦美	博世話人先生
立花真一郎	立花孝一	坂口正幸	田村省悟	空閑真理代	村 上 綾	宇山基紀	黒石忠宏	黒石忠宏	石川信雄	藤田 誠	土居道久	渡辺道仁	黒河明大	宮田みなみ	為田賢子	大亀満寿子							

【心定め提出のお願い】

各教会には、月報に来年の心定め用の紙を同封しております。〆切は11月20日とさせていただきますので、恐れ入りますが遅れないようご提出の程をお願い申し上げます。

【教会長夫婦・在籍者の集い】

去る、10月20日、大教会において「教会長夫婦・在籍者の集い」を開催させていただきました。当日は、57名の方が熱心に受講され、大教会長の挨拶の後、各部から方針発表があり、続いて3名（孕・生安 分教会長・西田川分教会長夫人）の方から感話を頂き、テーブルごとに対話の時間を設け、夕づとめ後に「勇みの会」と題して会食をさせていただきました。

【詰所活用委員会】

今年、新たに立ち上がった当委員会では、繁藤詰所をいろんな方が心地よく、大切に長く利用していただけるように、毎月話し合いを重ねています。



先月25日には、詰所にて帰参された方を対象に、「しげとうtime」と題して催しを開催させていただきました。当日は、大教会長と新

任された詰所主任より、詰所改修ふしんについて話があり、続いて2名の方から感話を頂き、又、詰所についての意見も聞かせてもらい、最後に抽選会をして景品をお持ち帰り頂いて、終了させて頂きました。

【教会支援部より】

▽大教会年祭活動の一つとして各教会には「仕切り月」を定めて頂きましたが、本年既に勤めて頂いた教会は、報告書をご提出下さいますようお願い致します。又、来年は仕切り月にあわせて大教会巡教を行うこととなりました。別紙ご確認の上、日程調整の為第3候補まで記入いただき、11月20日迄にご提出いただけますようお願い致します。

▽全教会一斉諭達巡教後の丹精について

各教会には、それぞれの上級教会を通して、又は大教会より「全教会一斉諭達巡教後の丹精について」の趣旨文と本部からの年祭活動リーフレット、大教会長様のご挨拶（活動方針ポスター）、大教会公式 SNS お誘い用の名刺、所属よふぼく名簿、シールを送付いたしましたので、必ずご一読下さいますようお願い致します。

配布物は各教会所属のよふぼく数用意しておりますので、シールをご活用頂いてお届け頂きますようお願い致します。又、名簿につきましては後日回収致しますので、配布欄に配布の有無をチェックして頂き、住所等変更事

項がございましたら、赤字にて訂正して頂きますようお願い致します。

【婦人会】

◎みちのだいおはなし会

- ・日時 11月26日(火) 午後一時～二時
- ・場所 東講堂
- ・講師 旭 和世（御空委員長）
- ・「仕合わせに感謝」
- 平井直子（泉道委員長）
- ・「よふきのたね」

※どなたでも入場できます。託児はありません。

駐車場には限りがありますので、なるべく周辺駐車場を利用して頂くか、徒歩でお越し下さい。

◎こかん様に続く会

- 左記の通り「こかん様に続く会」をつとめさせていただきます。大勢の方にご参加頂けますようお声がけの程、よろしく願います。
- ・日時 11月25日 午前10時（9時半受付）
- ・場所 詰所
- ・内容 支部長挨拶
- 女子青年委員長・副委員長紹介
- こかん様のお話
- 参拝・ひのきしん
- 昼食・お楽しみ行事

青年会総会後の後夜祭で、繁藤分会が出席する模擬店のお手伝いもさせていただきます。

◎母親講座の名称変更

この度、「母親講座」の名称が「みちのだい

育み塾」と変更されました。この名称には、
 教えを正しく学び、身につけて、世の中の風
 潮に左右されずに、教えに基づいた考え方や、
 判断ができる人に成人する場にしてほしいと
 という思いがこめられています。

・対象は子育て中の母親とその同年代の方

・直属支部での開催、教区支部で年2回開催
 委員会でもできるところは、この趣旨に基
 づいて進めてください

尚、委員長さんには別紙にて詳しい内容
 のプリントを同封致しております。ご確認く
 ださい。

【青年会】

「第97回天理教育青年会総会」

・日時 11月25日(土) 午前11時

・場所 本部長邸

◎関連行事(いずれも当日)

▽お話フェスティバル(参加費無料)

『日々常々〜新時代を生きる〜』

時間 14時〜16時

会場 天理大学9号棟ふるさと会館

基調講演講師 松尾真理子 先生

(加古大教会前会長夫人)

その他、応募による弁士のお話し

▽JOYOUS CUP(参加費3,000円)

時間 14時〜16時半

会場 天理大学袖之内第1体育館

競技 フットサル

※参加の応募は終了しております。

参加費の一部は、途上国の子どもへ送る
 ボール費として寄付されます。

▽キッズパーク(参加費無料)

時間 14時〜16時

場所 天理幼稚園 園庭

パフォーマンス

・シャボン玉 14時〜15時

・マジック 15時〜15時半

※カフェスペースで飲み物やお菓子を提供し
 て頂きます、ぜひ家族そろってご参加下さい。

▽後夜祭

本部夕づとめ(17:15)後

場所 東西泉水プール広場周辺

※繁藤分会も模擬店を出店させて頂きます。

ご協力お願いいたします。

【少年会】

◎研修員42期生募集

少年会本部では、おちばでの様々な研修や
 ひのきしんなどの伏せ込みを通して、縦の伝
 道を活発に推進していく人材を育成します。
 道につながる多くの若者たちが、この研修を
 修了し、国内外で少年会活動の中心となって
 活躍しています。多くの仲間と共に少年会活
 動について学びたい方は団長までご連絡くだ
 さい。

募集人数 30名

出願期間 令和5年9月26日〜

令和6年2月29日(必着)

出願資格 団長が推薦し、直属教会長が認め
 た者・ようぼく(おさづけ拝戴予定の者も可)

◎ちよっと!パツと!ペンきょう会

ちよっととした時間で、パツと学べる実技の
 勉強会です。お気軽にご参加下さい。

11月26日 鳴り物練習に役立つリズム遊び

時間 13:00〜13:50

場所 少年会本部 真南棟4階

参加費 200円

対象 育成会員

服装 動きやすい服装

◎お年玉教材

ピッキーのほん

わかバスタオル

頒価 500円



【おさづけの理拝戴者(9月)】

西田川 友石小百合 實彌原 田村駿次

【教人登録】

本山 宮田みなみ 城下 川崎明美

【をびや】

3 件

【おまもり】

1 件

教祖140年祭 三年千日の活動方針

明日に希望を、 今日を陽気に

～ひながたを心に、プラスワンの誠真実を～

実践目標

教会に人をお連れし、たすかる道を伝えよう
誠の理を、日々に働かそう
おさづけの取り次ぎ、チラシ配りの推奨
天理カードの登録推奨（目標 10,000人）

教えに親しみ、ひながたを心の頼りに明るく歩もう
信者の葉を毎日拝読する
ご守護に気づき、身近な人に信仰を伝えよう
お道と社会に貢献できるようほくを育てよう

ふしから芽が出るご守護をいただこう
心を定め、日々の理づくり・徳積みに励もう
「声は肥」旬を外さないよう+1の声かけを
月次祭を賑やかに勤めよう（仕切り月の実施）



繁藤公式 LINE で講話やブログなどを配信しています。
ぜひご登録ならびにご紹介をお願いします。



天理教繁藤大教会
SHIGETO